

# 環境

No.301

## 特集 岡山市立平福小学校の環境教育

シリーズ20世紀をふりかえって 総集編

### 探訪! 岡山博学スポット

事業団紹介

マニフェストシステムが変わります

岡山の昆虫

自然調査のススメ

INFORMATION

財団法人 岡山県環境保全事業団

出かけよう! 楽しもう! 岡山の自然を歩いてみよう!

## ふーど通信



気象庁では数種類の植物と動物を選び出して観測し、日本の生物季節を研究しています。ソメイヨシノの開花前線もその一つ。タンポポの開花日は桜よりもやや早く日本列島を北上していきますが、最近では一年中花が咲くセイヨウタンポポを見かけることも多く、タンポポで春の訪れを感じることは少なくなっていました。その季節、その時期だけに咲くからひととき印象に残る花。いろいろな思いを重ねながら、春の花を楽しんでみませんが、今回は津山城跡が桜の花で埋めつくされる鶴山公園をご紹介します。



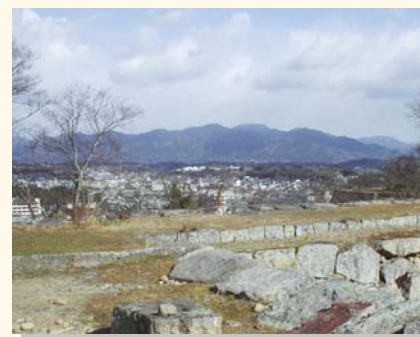
津山市の中心地に数層の石垣から成るこんもりとした高台があります。ここはかつて天下の名城と名をはせた津山城の城跡を人々の憩いの場とした鶴山公園。1963年(昭和38年)に国の史跡として指定され、「日本のさくら百選」(社)日本さくら(の会)にも選ばれました。春には約5000本の桜が咲き誇り、毎年恒例の「さくらまつり」期間中には約10万人の人出で賑わいます。

津山市

かぐざんこうえん  
鶴山公園(津山城跡)

森忠政の築城から約400年、石垣だけが残された津山城跡。津山城は、森忠政により1604年から13年間かけて築城されました。森家四代在城の後、徳川家一門の松平家が在城し、美作国はもとより幕府を支える要となつたそうです。しかし、大政奉還後、城の取り壊しが命じられ、1874年(明治

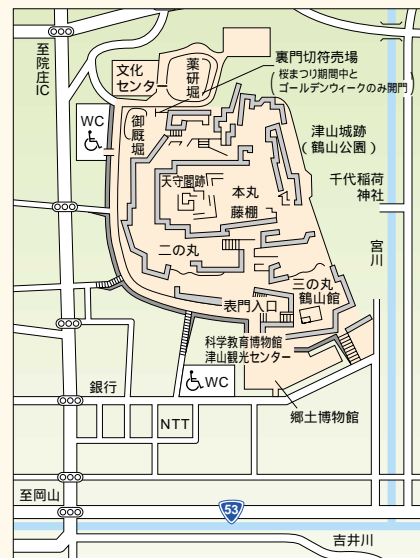
7年)に取り壊されました。表門に津山城の復元図があり、五層の天守閣がそびえる在りし日の雄大な姿を見ることが出来ます。今は石垣だけが残される中、かつての面影を思い起こさせるのが石段を登って見えます。津山城は武備を最も考えて造られた平山城。石段も一気に駆け上がり、なにより、わざと平らな部分を長くしてあつたのだとか。今は段と段の間に一段足しているそうです。通路も鍵型と筋違いの迷路になっているとここで、お城ならではの仕掛けに興味を引かれます。また、津山城の威容を今に伝える壮大な石垣は、野面積みと化粧積みの手法が取り入れられたもの。扇の勾配とよばれる曲線を持ち、人の手による石積み美しさに驚かされます。



天守閣跡からの眺め

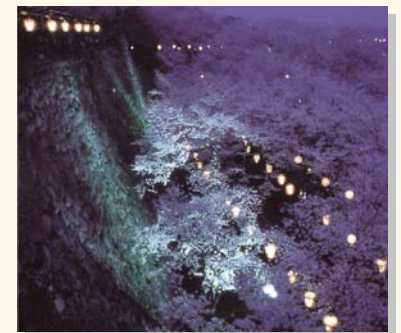
天守閣跡や藤棚などがある広い高台に出ると、東西南北それぞれの位置から津山市内の違った眺望が楽しめます。また、街中にありながら樹木や花が多い鶴山公園には様々な動物が生息。キツネやタヌキの他、鳥類も多く、コシアカツバメなどツバメだけでも6〜7種見かけるそうです。現在、鶴山公園では、2004年に津山城築城400年を迎えるにあたり、あちこちで発掘調査が進められています。

石垣と桜の花の見事な調和、街中のオアシス・鶴山公園。公園内の桜の木は、明治32年に城跡が鶴山公園として公開されてから植えられたもの。桜の植樹に尽力した先人の努力もあり、西日本有数の名所となりました。5,000本という数もさることながら、石段を一段登るたびに変わる桜の風情、眼下に見下ろす桜の雲海、夜桜と、鶴山公園でしか味わえない桜の楽しみ方が出来ます。新緑の頃には藤の花やツツジ、秋には紅葉、冬は雪景色と四季を通じて楽しめる鶴山公園。ゆっくり歩いて約1時間程、いにしえの歴史を身近に感じながら自然を愛でてみませんか。



城の取り壊しの際に、あじさいの絵の襷は長法寺(あじさいまつり期間中のみ公開)へ、歌舞伎門は徳守神社と大隅神社へ移されていますので、ゆかりの寺社で津山城の面影を迎えることも出来ます。

コシアカツバメ(腰が赤いツバメ。ドロでとっくり型の巣を作る)



夜桜

お問い合わせ

津山市山下97-1  
津山市観光協会  
086812213310



ふるさとの川を通してつながる、人、地域、世界。  
子どもたちのエネルギーが地球環境の未来を変える!

# 岡山市立平福小学校の環境教育

環境教育は「子どもたちに豊かな自然環境を体験してもらおう」と同時に、「身近な地域の環境にも目を向けてもらおう」ことで、環境に配慮した行動をとれる人を育てることを目的としています。

このような環境教育を5年間にわたり継続し、子どもたちが自分で考え、行動に移し、人と人、人と地域のネットワークを構築し、より大きな活動へと発展させている岡山市立平福小学校を取材しました。

ホームページアドレス  
<http://www1.harenet.ne.jp/hirafuku/>

岡山市立平福小学校（赤井和彦校長・全校児童数697名）では、平成8年度から身近な旭川を中心に水環境学習を行っており、その熱心な活動は昨年夏「CCC自然・文化創造会議/工場」とユネスコ協会連盟主催の環境教育コンクールで環境大賞を受賞するなど、全国でも注目を集める学校です。3学期が始まったばかりの1月18日、22日の両日、他県からの視察が重なるなか、5年生の環境学習の様子を取材しました。

## 環境学習レポート 1

「旭川を守る活動」をホームページで発信！  
1月18日はコンピュータルームでホームページの制作です。上流・中流・下流の学校とのネットワークによる旭川のデジタルマップ作りを進めており、平福小学校の活動をもっと知ってもらおうと「旭川を守る活動」に発信するページを作っているところでした。

約20台のコンピュータが並ぶ教室で、子どもたちは自分たちのテーマに沿って、調査した内容を打ち込んだり、絵を描いたりしています。中には絵を動かしたり、音を入れたりするホームページに挑戦する子どもたちもいます。平福小学校では1年生からコンピュータで絵を描いたり、算数などの学習を行っており、文字入力も慣れたもの。4年生でローマ字を習うとキーボードの特訓が行われるのだとか。どの子どもたちもコンピュータに抵抗なく取り組んでいます。

## 環境学習レポート 2

一人ひとり目的を持って主体的にフィールド調査  
そして、1月22日は、ホームページを制作するために必要な情報を得るため、旭川河川敷へとフィールド調査へ出かけました。



私達の提案



1. 食器ふき作戦
2. ゴミの徹底分別作戦
3. リサイクル作戦

寒くても元氣いっぱい、自分たちのテーマに沿って旭川のフィールド調査に出たグループ。水の汚れをきれいにするといわれるヨシの観察やシジミなど水辺の生き物を観察します。フィールド調査に必要な道具は事前にそれぞれが用意しておかなければなりません。

今日の旭川の水質は？バックテスト検査でCODを調べます。旭川の近くの用水路の水質やヘドロについても調べています。



河口近くにあるため、潮の満ち引きで水位が変わる学校近くの旭川。昔はカレイやチヌなどの海の魚も釣れたとか。歴史を調べると、昔は泳いだり、茶碗を洗ったり、生活と密着した川であったことが分かりました。



今日の水温は7℃。気温が低い時の水の様子はどうかな？



デジタルカメラで旭川に浮かぶ冬鳥の群れを撮影。デジタルカメラは5台あり、みんな上手に使いこなしています。

川岸にあった古いボートの水たまりの中に魚を発見。「ハゼの仲間かな？」デジタルカメラに収めて、元の場所に放します。

情報の質を高めよう」と時折アドバイスを送り、5年間にわたって蓄積・継続してきた教育側の努力があればこそ。  
平成12年度の学習について環境学習の主任である東 宏明教諭に、お伺いしました。  
「今年度は『ふるさとの川とともに生きる』みんなの川守り隊 世界への提言』をテーマに環境学習を行っています。1学期は全体テ

マを『身近な水環境を探ろう』とし、水・川・海の3つのグループに分かれて、一人ひとりテーマを持って身近な環境について調べました。子どもたちの興味・関心が広がる中で2学期は視野を広げ、岡山エリア・日本エリア・世界エリアの3つに分かれ、ネットワークを利用して交流学習に取り組みました。岡山エリアでは旭川の上・中・下流域と生き物・水・風景の違いなどについて情報交換をし、旭川デジタルマップ制作に取り組みました。また、日本エリアでは『瀬戸内キッズ・ネットワーク』を利用し、環境にやさしいライフスタイルについて考えました。さらに世界エリアではドイツの友達とメール交換をし、得た情報をもとに環境を学習している友達と共同プロジェクトに取り組みました。このような学習を展開していく中で、何か自分たちができることを取り組んでいこうという思いを強くしたのです。そこで現在、食器ふき作戦・ゴミの徹底分別作戦・リサイクル作戦・クリーン作戦の4つを提案し、全校で給食の後の食器を新聞紙で拭くなどの行動を実践しています。」ということでした。幅広い視野で環境への興味を深めたり、他地域や世界と交流する中で、改めて行動することの大切さを認識した子どもたち。みんなの強い思いが大きなエ



大きなモニター画面の前でホームページ制作の説明を受ける子どもたち。「どうしように作ったらより相手に伝わるのか、工夫ができるところはどんどん工夫しよう。」という先生の言葉に、何を伝えたいかを絞り込み、まず入れたい写真や絵などの素材を用意します。

「あ、カモがいる！」と川面の冬鳥にデジタルカメラを構える子、砂を掘ってシジミを探る子、川の水温を計る子、水質検査をする子、川のそばにある住吉神社を訪れた人に取材をする子、波の状態を観察する子。岡南大橋を望む旭川下流の川岸で、それぞれ自分たちのテーマに沿って、慣れた手つきでデジタルカメラや検査器具を使い、調査や観察を行っています。デジタルカメラで写した映像は「旭川の四季」をホームページで伝えるためのもの。このほかにも「旭川の生き物」「潮の満ち引き」「旭川の今と昔」「住吉神社」「用水路の生き物」などをテーマにした自分たちの様々な活動の様子をホームページで発信していきます。一方、今回フィールドで調査する必要のないテーマの子どもたちは、図書館で調べものをしたり、コンピュータ入力を進めます。これらはみんな子どもたちの判断。目的意識を持って自主的に学習が行われます。環境教育を担当している東 宏明先生や三宅貴久先生は、「なぜデジタルマップを作っているのか」、「形よりも中身を大事に、エネルギーとなり、世界へ向けて提言を発信するという素晴らしい結果につながっています。」

CCC自然・文化創造会議/工場から環境大賞をいただき、昨年の8月20日から10日間、ドイツのフランクフルト、フライブルクに本校児童2名とともに行って来ました。現地での学校で授業に参加したり、様々な施設を見学したりするなかで、今回の訪問でお世話になったレーナー先生の言葉がとも印象的でした。「自然と私たちのくらし・社会・産業は接続可能である。」ドイツでは、そのどれかを優先するのではなく、4つの歯車が噛み合い、お互いのバランスを保ちながら営まれていこうと感じました。また、こうした考えを次の世代につなげていくことの大切さから、子どもたちへの環境教育も熱心でした。平福小の環境学習でも、学んだことを自分の生活のなかで活かす、できることから社会へ参加していこうとする子どもを育てていきたいと考えています。



## 環境大賞受賞・ドイツにホームステイして感じたこと

岡山市立平福小学校教諭 東 宏明



「CCC自然・文化創造会議/工場（作家の倉本聡さん、C・W・ニコルさん、高橋延清東大名誉教授などがつくる自然保護団体）」と日本ユネスコ協会連盟主催、環境省、在日ドイツ大使館などが後援する環境教育コンクール



# これまでの環境教育の経緯

岡山市立平福小学校教諭

三宅 貴久子

平成8年度から環境教育の中心的な存在として活動して来られた三宅貴久子先生に、これまでの活動の経緯についてコメントをいただきました。

平福小学校では、身近な旭川を中心に、平成8年度から総合的な学習における水環境学習に取り組んでいます。子どもたちは、一人ひとりテーマを持ち、調べ学習に取り組みます。そして、自分の調べたことから分かったことを互いに意見交換し、自分なりの考えを構築します。その際、自分たちの身近な旭川に対する見方・考え方を広げ、深めるためにネットワークを利用して他地域との交流学習にも取り組んでいます。また、調査・研究の内容や方法のアドバイザーとしてARネットの方々にも協力していただいています。

7月、11月に行われる住吉神社のお祭りの後など、年4回行われるクリーン作戦でゴミを拾う子どもたち。集めたゴミは分別してまとめます。ゴミが少しでも少なくなるよう「ゴミの持ち帰り」を呼びかけたり、分別出来るように工夫したゴミ箱を設置しています。



子どもたちは、調べていく中で、身近な旭川の実態を知り、「このままではいけない！自分たちに何かできることを行動していきたい！」という思いを高めていきました。そして、地域の環境改善のための一環として、「クリーン作戦」に年間4回取り組んでいます。最初は、ある学級からスタートした活動ですが、今や4年生から6年生までの子どもたち全員、保



子どもたちのネットワークが構築できました。なぜ、子どもたちは旭川流域の子どもたちのネットワークを作りたい！と痛感したのでしょか。それは、平成10年度の学習のなかから子どもたちの願いとして強く現れてきたのです。

ある日、子どもたちが話し合いをしています。その中で、ある子どもが「ぼくたちが汚れた水を出さないようにといくらがんばっても、上流の方からゴミは流れてくるから旭川はきれいにしないんじゃないかなあ？」とみんなに疑問を投げかけました。

それまで、旭川以外の地域の友達と身近な水環境のことで交流学習を展開し、他地域の川の実態を比較することによって、地域の川の問題点も実感していました。しかし、自分たちが問題を解決しようと行動したことが果たして効果があったのかどうか、子どもたちには疑問として残ったのです。「自分たちだけで



護者や地域の方々、そして、今年度は福浜中学校の人たちとも、共に活動することができました。

さらに、今年度は子どもたちの念願であった旭川流域の6校の

なく、旭川の現実を流域の多くの人たちに知ってもらい、互いに旭川に対してのかわりを見つめ直し、共に行動する仲間の輪を広げることが大切なのではないか」というのが子どもたちの思いだったのです。自分たちのふるさとの川を大切にしたい！そして、いつか必ず、「飲める！泳げる！遊べる！」身近な旭川に生まれ変わるように、今、自分たちにできることを考え、行動していこうという。そのためには、自分たちだけでなく、旭川流域の子どもたちのネットワークを作って、それぞれが身近な地域の旭川の浄化活動に取り組んでいくことが大切であると考えていったのです。これも、これまでの活動の積み重ねにより、先輩たちの思いを後輩が受け継ぐ形で、子どもたちの思いは醸成され、ここまで活動の輪が広がってきたのだと思います。



美甘小学校、中和小学校、岡山大学附属中学校と電子メールやテレビ会議しながら情報交換し、調査研究を進めています。今年度のテーマは「旭川の水はいつでもどこで汚れるのか」「水をきれいにする植物」「オオサンショウウオと旭川」など13テーマ。

## 5年 奥 航太郎

### 環境学習をしてよかったこと

僕が環境学習をしてよかったことは、環境学習を通していろいろな人に出会えたことです。国土交通省の竹原さん、ARネットの方々、美甘小、湯原小、誕生寺小、清輝小の友達と環境のことで情報交換ができてとても勉強になりました。

夏休みに、上流域の美甘で仲間と2泊3日の体験交流台所をしたことは、最高の思い出もなりました。身近な旭川も上流の川のような水が澄んで、生き物たちもいっぱいいるきれいな川にしたいなと強く思いました。これからも仲間と一緒にクリーン作戦をして少しでもきれいな旭川にしたいです。

## 5年 白髪 佑規

### 環境学習をしてよかったこと

日本からドイツまでの13時間、遠いと思っていた国なのに日本とよく似た風景でした。ドイツの人たちは、言葉の分からない僕たちにとっても親切にしてくれました。自分の国を大切にすることをドイツ人は、環境問題に熱心で水や空気を汚さない、リサイクルすることによってゴミをできるだけ出さないように心がけていました。僕たちもドイツの人たちを見習って、自然が豊かで住みよい日本にするようにこれからもがんばっていききたいと思います。

## 5年 吉田 由貴

### 環境学習をしてよかったこと

私が環境学習をしてよかったと思うことは、飲めきれないほどあります。なかでも、クリーン作戦に参加して、少しでも旭川をきれいにできたと思えたことです。4年生までは、あまり川のことについて興味はなかったけど、5年生になって、みんなと身近な自然である旭川について情報を集めることによって、川がどんな様子なのかよくわかりました。そして、そのままではいけない！旭川のことを気にするようになったのです。4月からは6年生です。この活動を受け継いで、「飲める！泳げる！遊べる！」旭川にしたいです。

## 5年 稲岡 加奈子

### 環境学習をしてよかったこと

環境学習をするようになって自分が変わったことは、遊びに行つたときでもゴミが気になって、落ちていたら家にもちがえるようになったことです。それまでは、全くそんなことはなかったのです。また、新聞やテレビ等で環境に関する情報を見つけると、その情報をしっかりと読んだり、聞いたりするようになりました。そして、今社会がどうなっているのかということも自分なりに知りたいと思うようになりました。学習を通して、自分のできることを行動したり、自分の周りの環境の変化についても知りたいと思うようになったことは、自分にとって大きな成長だなあと感じています。

## 親や地域を変えた環境学習

岡山市立平福小学校PTA会長 正本 裕幸

私は昭和32年の生まれで、日本全体が高度経済発展へと盛り上がった時期がちょうど小中学校でした。テレビをはじめとした家電製品や車が普及し始め、消費は美德、経済最優先、そんな固定観念が私たちの世代には育つていったように思います。そのうち経済発展と同時に、工場排出物等による人体汚染が報道されるようになってきました。旭川の downstream に住んでいた私は、幼児の頃泳げてきた川が急激な変化を遂げたのを目撃して、気がついていました。その頃は日本人古来の価値観「清い水は水に流せばいい」という感覚と同じように、「汚いものは水に流せばいい」という感覚でとらえていたのかも知れません。

しかし、ここ20年来、地球規模の環境問題が報道される中で子どもたちは成長しています。平福小学校で総合学習の一環として環境と国際理解を学ぶうちに、子どもたちの視野が日本だけでなく世界に広がり、また、ただでなく未来にも目を向けて学習する中、私たち親の行動にも変化が生まれてきました。子どもたちが学んだことを親た

ちが教えてもらい、私たち親も環境について学ばなければという思いが生まれ、その学ぶ中で子どもたちの固定観念を変え、それを実践しなければならぬことに気付くことが出来ました。

そんな影響もあり、学区全体では分別回収なども浸透してきていますし、子どもたちの姿に後押しされて、PTAとして学区内のお祭りの翌日の河川敷清掃、また牛乳パックと家庭廃油のリサイクル回収なども実践しています。

私は川の近くで生まれ育ちましたので、次の世代にも私たちの子どもと同じような、泳ぐことのできる川とか、メダカが獲れる川とか、そんな環境を引き継がせてやるのが私たちの責任の一つであるように思います。そのためには、みんなが小さなゴミのポイ捨てをやめることから始めなければなりません。そして、今の子どもたちが大人へと成長した頃には、彼らの新しい価値観で創りうる日本が、環境先進国へ仲間入り出来ることを願っています。

平福小学校の環境学習を取材し、学習内容が旭川の自然観察や水質調査といった狭義にとどまらず、旭川と自分たちの暮らしを自然、歴史、文化等の様々な視点から、科学的・総合的に調査・研究していることに驚かされました。そして、他との交流を深める中で、行動していく重要性を認識し、子どもたちから世界へ向けて提言を発信する力強さを持つていくことにうれしさを感じました。

持続可能な社会を創造するためには、循環型社会、生物の多様性の確保、コミュニケーションの回復などを地域で行っていくことが必要であるといわれています。

5年前、一つの学級から始まった環境学習が学校全体の取り組みとなり、親や地域、旭川流

域の人々を動かす大きな影響力を持って環境改善へと行動の輪が広がっています。その原動力は、「いつまでも自分たちのふるさとを大切に思ってもらいたい」という先生方の情熱。平福小学校の子どもたちがいつか親になって、その子が親になってと世代が変わっていくつても、ふるさとの川を大切に思う環境学習の輪が地域に根付き、日本全体に地球にと波及し、未来へ継続していくことを願ってやみません。





# 20世紀を振り返って

## シリーズ私たちの歴史と環境

“20世紀を振り返って”では、今まで11回にわたり環境の視点から歴史を振り返ってきました。今回、このシリーズを終えるにあたり、この100年間に私たちの社会はどう変わっていったのか、環境を取り巻く社会情勢を写真とデータで振り返ってみます。

これまで取り上げた記事を読み返すと、昭和50年代半ば(1980年頃)までの開発優先の社会から、それ以降の自然保護や環境保全に配慮した社会へと、岡山県の環境に対する流れが大きく変わったことがわかります。

21世紀、岡山県にはどのような足跡が残るのでしょうか。環境問題という高いハードルを無事に越え、自然と人間との共生社会が実現していることを希求し、このシリーズを終えることにします。



**1934年 昭和9年**  
瀬戸内海が全国初の国立公園3公園の1つとして指定される

### 戦前

**岡山城**  
三層六重の天守閣がそびえる岡山城。天守閣は1945年(昭和20年)の空襲で焼失した。旭川には流し筏(いかだ)が見える。現在の岡山城は1966年(昭和41年)に再建され、1997年(平成9年)の築城400年を機に内外装を改修。「金鳥城」と呼ばれた築城時の姿を復元した。



**1909年 明治42年**  
宇野築港の竣工式当日の宇野港埋立地  
塩田の連なる一漁村であった宇野が海の玄関として整備され、宇野港が完成。1910年(明治43年)には国鉄宇野線が開通、同時に宇野-高松間の連絡船も就航し、本土と四国の連絡が飛躍的に便利になった。



**1907年 明治40年**  
高梁川大改修工  
下流の酒津(現・倉敷市)で東西二流に分かれていた西川・東川のうち、再三の大洪水を防止するために東川を廃川にする改修工事が18年の歳月をかけて行われた。写真は姿を消した東川。山陽本線の鉄橋が架かる。現在の倉敷市営球場の北付近。

# 1940...1935...1930...1925...1920...1915...1910...1905...1901

42 昭和17年 開通 初の海底トンネル	41 昭和16年 太平洋戦争 (1945年) 関門トンネル(世界)	37 昭和12年 日中戦争	36 昭和11年 2・26事件	31 昭和6年 満洲事変	30 昭和5年 冷蔵庫発売	29 昭和4年 世界大恐慌始まる	27 昭和2年 金融恐慌 日本初の地下鉄開通 (全長 上野約2km)	25 大正14年 ラジオ放送開始	23 大正12年 関東大震災	18 大正7年 米騒動広がる	14 大正3年 第二次世界大戦 (1918年)	12 大正元年 人口が5,000万人 を超える	10 明治43年 日韓併合	04 明治37年 日露戦争	03 明治36年 動力飛行に成功した ライト兄弟の有人	01 明治34年 官営八幡製鉄所が操業開始 田中正造 足尾銅毒事件を直訴
----------------------------	--------------------------------------------	------------------	--------------------	-----------------	------------------	---------------------	---------------------------------------------	---------------------	-------------------	-------------------	-------------------------------	-------------------------------	------------------	------------------	-----------------------------------	--------------------------------------------

## 1926年(昭和元年)~1945年(昭和20年)

昭和に入ると金融恐慌、世界大恐慌が起こり、不況が深刻化。軍部の台頭で1931年(昭和6年)には満洲事変が勃発、戦争とファシズムの時代へ向かう。国民生活の戦時統制が強まる中、1941年(昭和16年)太平洋戦争に突入。岡山県内でも「銃後」の生活は戦時体制一色となる。1945年(昭和20年)、岡山市などは空襲によって壊滅的な被害を受けた。

# 昭和



1945年(昭和20年)岡山空襲で焦土と化した岡山市街  
天満屋から北を見た光景。右下から上方へ延びる道が下之町、中之町、上之町と続く表八力町の通り。左右に交差する道が現在の県庁通り。



「拳国一致」の戦時体制へ  
応召軍人家庭の田植えに  
勤労奉仕する新見高等学  
校生徒。1939年(昭和  
14年)頃

1934年(昭和9年)  
室戸台風襲う  
四国の室戸岬に世界でも最大級の室戸台風が上陸。岡山県下も暴風雨に見舞われ、三大河川は大洪水、未曾有のツメ跡を残した。写真は堤防の決壊で濁流が流れ込む岡山市街。



乗合自動車、次々と開業  
岡山県に乗合自動車が初めて登場したのは1912年(大正元年)。本格的な営業は1917年(大正6年)片上-岡山間が最初。その後2.3年の間に津山、宇野、新見などに相次いで開設された。写真は片上宇佐八幡宮の前。1918年(大正7年)頃



大正期  
都是(くんぜ)製絲津山工場の  
繰り糸作業

## 1912年(大正元年)~1926年(大正15年)

第一次世界対戦後には戦後恐慌が発生。綿糸、生糸の相場は半額以下に暴落。さらに1923年(大正12年)の関東大震災で経済は大きな打撃を受けるなど、大正時代は不況が続いた。岡山県では乗合自動車の登場、西大寺軽便鉄道などが開通。また、伯備線が順次開通し、高梁川の高瀬船に頼っていた物資輸送に大きく貢献するなど、交通の発達に人々に影響を与え始めた。1899年(明治32年)に大阪の実業家・藤田伝三郎によって始まった大規模な児島湾干拓による藤田農場(約1,200ha)が完成し、全国に先駆けて機械化農業が始まった。

# 大正

藤田農場の創設  
1912年(明治45年)に児島湾の干拓1,2区(約1,200ha)が完成。外国製の農機具が次々導入され、日本を代表する機械化農業地帯となった。写真は脱穀機を取り付けた藤田農場の脱穀船。水路を移動しながら自動脱穀する画期的な装置。1918年(大正7年)頃

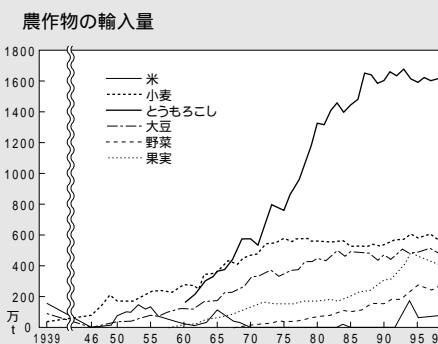
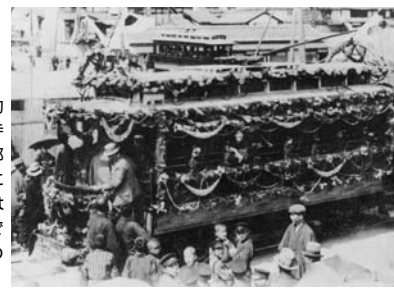


## 1901年(明治34年)~1912年(明治45年)

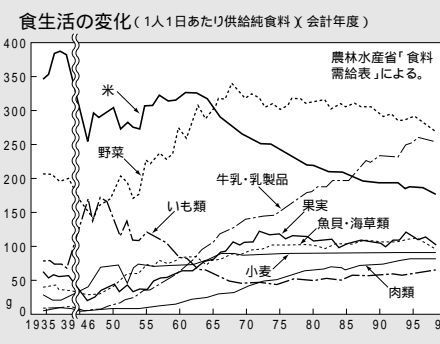
明治維新以降、欧米諸国に追い付こうと富国強兵を掲げ、近代化へまい進した日本。明治後半は重工業を発達させ、日露戦争を機に一層の軍事力強化を図っていった。20世紀初頭の岡山県は、山陽鉄道(現JR山陽本線)と中国鉄道(現JR津山線)がすでに開通。紡績、製糸、鉱山などの産業が発達した。岡山市内の家庭では電灯が普及し始め、1903年(明治36年)には電話が開通、上水道も開業した。しかし、ほかの地域ではまだランプや灯明の中での暮らしが営まれた。

# 明治

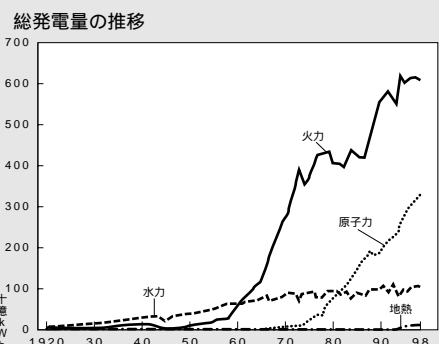
1912年(明治45年)  
岡山市で路面電車開業  
岡山駅-弓之町(後楽園前)の約1.5km区間、続いて城下-西大寺間が開通。チンチンと軽快で都会的な響きを立てる路面電車に市民の喜びは大きかった。料金は4銭(米1升が5~6銭)と割高であったが、その後、次第に市民の足として定着していった。



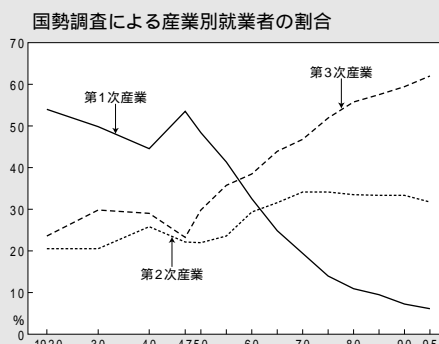
近年、野菜は輸入量が増加しており、1998年度の輸入依存度は16%となり、自給率を低下させている。安価な小麦や大豆の輸入により、国産小麦と大豆の競争力は依然として低く、自給率はいずれも1桁台で低迷している。



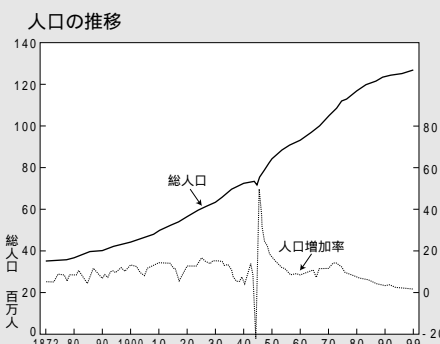
戦前は米を主食として野菜を多目にとり、芋類、果実、魚介類を並べ比較的簡素な食事が多かったが、戦後、日本人の食生活は急激に変化。食生活の洋風化・多様化が強まり、1960年代後半には米離れが表れる。変わって乳製品と肉類の消費が増える。



本格的にエネルギー源を利用し始めたのは明治維新後。石炭がその中心で、戦後エネギー源の主力であった。1960年代に入ると安価な原油が大量輸入されるようになるのと同時に家電製品の普及率が高まるなど、消費電力量も急激に増加した。オイルショック後は石油代替エネルギーの導入が進められ、1997年度の原子力発電の割合は30%を突破した。



1920年(大正9年)には第一次産業が53.8%を占め、農業が産業構造の中心であった。戦後、高度経済成長期は製造業の第2次産業が多く労働力を必要とし、1965年(昭和40年)には農業従事者を上回った。その後は卸売・小売業およびサービス業など第3次産業の比重が高まり、1995年(平成7年)には61.8%を占め、産業構造は一変した。



1872年(明治5年)に3,481万人だった日本の人口は、1912年(大正元年)には5,000万人を超え、その後急速に増加。1967年には1億人を突破した。1999年には全人口の6人に1人が65歳以上となり、高齢化が急速に進む。

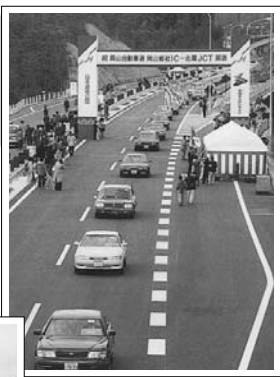
# データで見る20世紀

人類の祖先が地球上に現れたのは約500万年前、最初の文明が起こったのは紀元前5,300年頃と推定されています。人類文明の約7,300年間の歴史の中で、ごく最近のわずかな期間、とくに産業革命が世界に波及した以降100年余りの間に、私たちは地球が46億年の歳月をかけて形成・蓄積してきた資源やエネルギーを大量に消費し、汚染物質や廃棄物を環境中に排出しつつ現代文明を築いてきました。この結果、地球環境の急激な劣化を招き、人類社会は今、健全に存続できるかどうかの岐路に立たされているといっても過言ではありません。

地球というかけがえのない星に生きる人間。私たちには、この地球の恩恵をいつまでも受けられるように、次世代へ引き継いでいく責任があります。持続可能な未来は、あらゆる分野で「地球環境」の視点を持つことから始まります。一人ひとりが地球との付き合い方を考え、出来ることから実践することが急務ではないでしょうか。

## 1987年 昭和62年

児島湖浄化対策推進協議会が「児島湖浄化推進月間」を実施



## 1997年 平成9年

岡山自動車道開通、交流新時代が幕を開ける



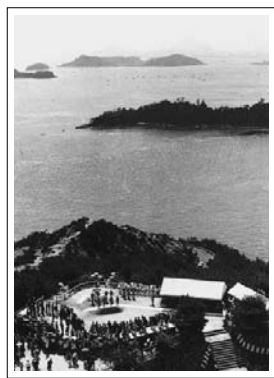
## 1983年 昭和58年

倉敷市公害病認定患者が水島の企業を提訴



## 1979年 昭和54年

水島に(財)岡山県環境保全事業団の産業廃棄物処分場が完成



## 1978年 昭和53年

瀬戸大橋着工。倉敷市児島と坂田市番の洲で花火を合図に起工式が行われた



## 1974年 昭和49年

(財)岡山県環境保全事業団設立



## 1972年 昭和47年

山陽新幹線、新大阪-岡山間が開通



## 1973年 昭和48年

本格的な公害対策へ第一歩。全国に先がけ水島地域の硫酸化物の排出量を規制



## 1970年 昭和45年

岡山県公害対策本部が発足

2000...1995...1990...1985...1980...1975...1970...1965...1960...1955...1950...1945

戦後の昭和  
45 昭和20年 ポツダム宣言受諾、戦争終結  
46 昭和21年 日本国憲法公布  
47 昭和22年 朝鮮戦争勃発、特需景気おさる  
48 昭和23年 サントリー、サンヨー、和洋約  
49 昭和24年 テレ放送開始、白黒テレビが普及目標となる  
50 昭和25年 (テレビ)電気冷蔵庫、電気洗濯機の三種の神器が普及目標となる  
51 昭和26年 神武景気  
52 昭和27年 (テレビ)カラーテレビ放送開始  
53 昭和28年 カラーテレビ放送開始  
54 昭和29年 カラーテレビ放送開始  
55 昭和30年 カラーテレビ放送開始  
56 昭和31年 カラーテレビ放送開始  
57 昭和32年 カラーテレビ放送開始  
58 昭和33年 カラーテレビ放送開始  
59 昭和34年 カラーテレビ放送開始  
60 昭和35年 カラーテレビ放送開始  
61 昭和36年 カラーテレビ放送開始  
62 昭和37年 カラーテレビ放送開始  
63 昭和38年 カラーテレビ放送開始  
64 昭和39年 カラーテレビ放送開始  
65 昭和40年 カラーテレビ放送開始  
66 昭和41年 カラーテレビ放送開始  
67 昭和42年 カラーテレビ放送開始  
68 昭和43年 カラーテレビ放送開始  
69 昭和44年 カラーテレビ放送開始  
70 昭和45年 カラーテレビ放送開始  
71 昭和46年 カラーテレビ放送開始  
72 昭和47年 カラーテレビ放送開始  
73 昭和48年 カラーテレビ放送開始  
74 昭和49年 カラーテレビ放送開始  
75 昭和50年 カラーテレビ放送開始  
76 昭和51年 カラーテレビ放送開始  
77 昭和52年 カラーテレビ放送開始  
78 昭和53年 カラーテレビ放送開始  
79 昭和54年 カラーテレビ放送開始  
80 昭和55年 カラーテレビ放送開始  
81 昭和56年 カラーテレビ放送開始  
82 昭和57年 カラーテレビ放送開始  
83 昭和58年 カラーテレビ放送開始  
84 昭和59年 カラーテレビ放送開始  
85 昭和60年 カラーテレビ放送開始  
86 昭和61年 カラーテレビ放送開始  
87 昭和62年 カラーテレビ放送開始  
88 昭和63年 カラーテレビ放送開始  
89 昭和64年 カラーテレビ放送開始  
90 昭和65年 カラーテレビ放送開始  
91 昭和66年 カラーテレビ放送開始  
92 昭和67年 カラーテレビ放送開始  
93 昭和68年 カラーテレビ放送開始  
94 昭和69年 カラーテレビ放送開始  
95 昭和70年 カラーテレビ放送開始  
96 昭和71年 カラーテレビ放送開始  
97 昭和72年 カラーテレビ放送開始  
98 昭和73年 カラーテレビ放送開始  
99 昭和74年 カラーテレビ放送開始  
00 平成元年 カラーテレビ放送開始

## 1989年(平成元年)~

# 平成

1980年代後半から発生していたバブル(金余り現象)が崩壊。そのツケが表面化し、景気が後退。リストラや倒産が増え、不景気が深刻化する。阪神・淡路大震災など大きな自然災害も発生した。環境面では廃棄物問題や地球温暖化など日常生活や事業活動に起因する都市型・生活型の広範な環境問題が発生。1993年には「環境基本法」が制定され、また、世界的な規模で地球環境問題を考える「地球環境開発会議」や「地球温暖化防止京都会議」が開催された。

岡山県では瀬戸大橋の開通後、山陽自動車道、岡山自動車道などが次々と開通。東西南北を結ぶ高速道路網が整備され、交通新時代が幕を開けた。環境保全に対する取り組みも積極的に進められ、1996年には「岡山県環境基本条例」を制定。1998年に策定された「岡山県環境基本計画エコビジョン2010」の数値目標に基づき、県民・事業者・行政が一体となった取り組みが始まった。

これまで資料・写真の提供を快くお受けいただきました(株)山陽新聞社に対し、心より御礼申し上げます。

## 1973年(昭和48年)

オイルショックによるトイレットバー騒動  
世界最大の石油輸出国サウジアラビアの対米石油輸出全面禁止措置により、日本に割り当てられる石油が大幅に削減。日本全国で「もの不足パニック」が起こった。写真は岡山市内のスーパーの紙類の特売場に殺到した人々。



## 1986年(昭和61年)

夢の架け橋「が」  
1978年(昭和53年)着工からほぼ10年、6つの橋をつないで備瀬瀬戸をまたぐ「瀬戸大橋」の工事が進む。写真手前はルート最長の南備瀬瀬戸大橋。立ち上がった主塔(タワー)にメインケーブルが架設され、長大つり橋が全容を見せ始めた。



1967年(昭和42年)マイカー時代到来  
この年、岡山県下の自動車登録台数は約4万1,200台。10世帯に1軒が「マイカー」家族となった。街に車があふれ、交通事故、渋滞が目立ち始めた。



農山村の過疎化が進む  
県の人口は170万人台になったが、人口は工業化・都市化の進む県南部に集中し、県中北部の農山村地帯は急激な過疎現象に見舞われた。写真は1970年(昭和45年)頃の備中町。荒れたら屋根が過疎の厳しさを訴える。



1962年(昭和37年)  
岡山県で第17回岡山国体が開催される  
「友情 秩序 奉仕」のスローガンを掲げ、岡山を舞台に国体が開かれた。9月の夏季大会に続き、10月21日には秋季大会が開幕。開会式が行われた県宮陸上競技場には天皇、皇后両陛下を迎え、各県選手団が勢揃いした。国体を前に、岡山駅前、駅西口の都市再整備をはじめ道路や空港整備など、県内各地で国体を迎えるにふさわしい郷土づくりが進んだ。



1961年(昭和36年)  
水島の開発進む  
世界的なスケールの臨海工業基地として期待された倉敷・水島コンビナートの建設が1960年代に入って急ピッチで進む。企業が次々と立地し、農業県だった岡山県は工業県へと飛躍を始めた。



1956年(昭和31年)  
児島湾を締め切り、日本最大、世界第2位の人造湖が誕生  
写真は児島湾を1,558mの堤防で締め切る最後のヤマ場、潮止り作業。3時間の干潮時を利用、450人が捨石を積み上げ、約370mの潮止りをせき止めた。

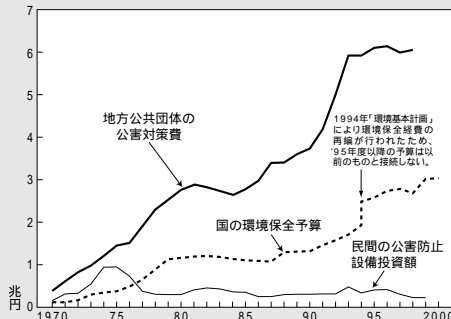
## 1945年(昭和20年)~1989年(昭和64年)

# 昭和

終戦後、日本はめざましい復興を遂げ、さらに所得倍増計画のもと驚異的な高度経済成長を実現した。しかし、経済発展の裏側では公害問題が深刻化。1967年(昭和42年)には公害対策基本法が制定されるなど対策が進められた。岡山県では戦後、食料増産のため農林省(現在の農林水産省)による児島湾干拓事業などが進められた。昭和20年代後半からは「農業県から工業県へ」のスローガンのもと、水島臨海工業地帯が整備され、本格的な重化学工業地帯として稼働し始めたが、大気汚染・水質汚濁などの公害が発生。岡山県は全国的にも厳しい規制を設けるなどして、公害対策に先進的に取り組んだ。

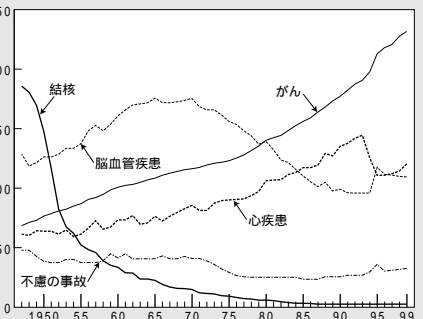


### 環境対策関係費(会計年度)



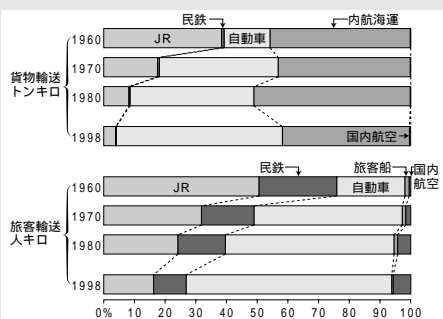
1960年代には公害訴訟が起こり、企業は公害防止の技術開発・実用化に力を注ぐ。1970年には「公害対策基本法」の改正により環境庁が設置される。1970年代になると環境問題は多様化し、都市・生活型の公害が深刻化。環境アセスメントなど地方自治体の取り組みも国内に先行して行われる。

### 主な死因別死亡率



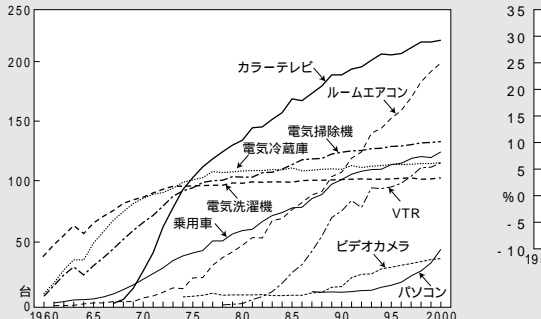
1951年には結核にかわって脳血管疾患が第1位となり、心疾患、悪性新生物(がん)などの慢性疾患が死因の上位を占めるようになる。1981年以降は、がんが死因の第1位となっている。現在、がん・心疾患・脳血管疾患を合わせた死因の60%を占める。

### 輸送機関別の輸送構造(国内輸送)



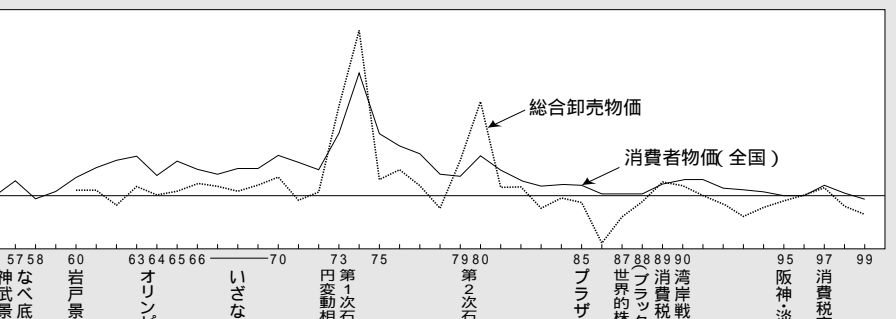
1960年代半ばからマイカーが普及し始め、輸送の手段は鉄道から自動車へと移っていった。1987年には自動車輸送が50%を超えたが、大気汚染などの環境問題が起き、現在はトラック輸送を鉄道や海運などエネルギー効率のよい輸送機関に振り分ける輸送方法が進められている。

### 耐久消費財保有数量(100世帯あたり保有数量)



人々の所得水準が飛躍的に高まるにつれて、耐久消費財の消費が増え続けた。1970年には電気洗濯機が、1971年には電気冷蔵庫が、1975年には電気掃除機とカラーテレビがそれぞれ90%の普及率となり、より便利で快適な生活をもたらした。1978年には乗用車の普及率が50%を超えた。

### 卸売り物価と消費者物価指数の対前年(上昇・下降)率の推移



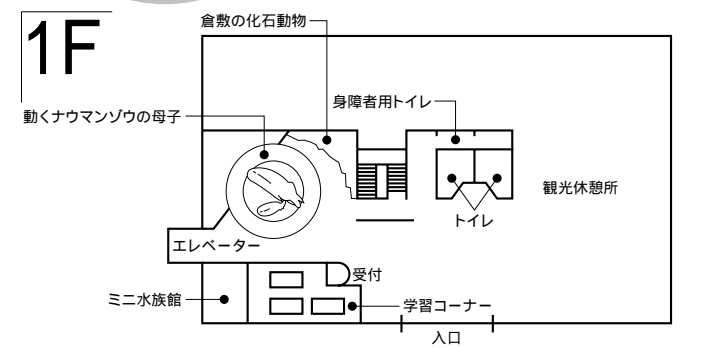
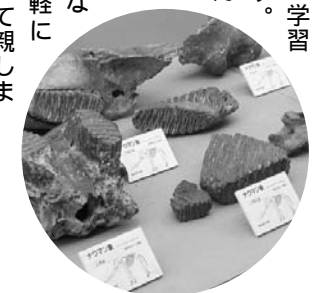
1956年(昭和31年) 児島湾を締め切り、日本最大、世界第2位の人造湖が誕生  
1957年(昭和32年) 神武景気  
1958年(昭和33年) なべ底不況  
1959年(昭和34年) 岩戸景気  
1960年(昭和35年) オリンピック景気  
1961年(昭和36年) いざなぎ景気  
1962年(昭和37年) 第1次石油ショック  
1963年(昭和38年) 円変動相場制に移行  
1964年(昭和39年) 池田内閣、所得倍増計画策定  
1965年(昭和40年) 伊勢湾台風  
1966年(昭和41年) カラーテレビ放送開始  
1967年(昭和42年) カラーテレビ放送開始  
1968年(昭和43年) カラーテレビ放送開始  
1969年(昭和44年) カラーテレビ放送開始  
1970年(昭和45年) カラーテレビ放送開始  
1971年(昭和46年) カラーテレビ放送開始  
1972年(昭和47年) カラーテレビ放送開始  
1973年(昭和48年) カラーテレビ放送開始  
1974年(昭和49年) カラーテレビ放送開始  
1975年(昭和50年) カラーテレビ放送開始  
1976年(昭和51年) カラーテレビ放送開始  
1977年(昭和52年) カラーテレビ放送開始  
1978年(昭和53年) カラーテレビ放送開始  
1979年(昭和54年) カラーテレビ放送開始  
1980年(昭和55年) カラーテレビ放送開始  
1981年(昭和56年) カラーテレビ放送開始  
1982年(昭和57年) カラーテレビ放送開始  
1983年(昭和58年) カラーテレビ放送開始  
1984年(昭和59年) カラーテレビ放送開始  
1985年(昭和60年) カラーテレビ放送開始  
1986年(昭和61年) カラーテレビ放送開始  
1987年(昭和62年) カラーテレビ放送開始  
1988年(昭和63年) カラーテレビ放送開始  
1989年(昭和64年) カラーテレビ放送開始  
1990年(平成元年) カラーテレビ放送開始  
1991年(平成2年) カラーテレビ放送開始  
1992年(平成3年) カラーテレビ放送開始  
1993年(平成4年) カラーテレビ放送開始  
1994年(平成5年) カラーテレビ放送開始  
1995年(平成6年) カラーテレビ放送開始  
1996年(平成7年) カラーテレビ放送開始  
1997年(平成8年) カラーテレビ放送開始  
1998年(平成9年) カラーテレビ放送開始  
1999年(平成10年) カラーテレビ放送開始



# 倉敷市立自然史博物館



倉敷美観地区のすぐそば、旧市役所の跡地として昭和58年にオープンした倉敷市立自然史博物館。岡山に本格的な博物館をという市民・県民の強い要望や、植物研究者・宇野雄雄氏の5万点に及ぶ植物コレクションの保存などを目的に設立されました。開館当時は、旧市役所別館の二階三階でしたが、平成6年には一階の一部も博物館に移管、より充実した博物館になりました。館内は4つのテーマで展示室が構成され、自然界を探索するような楽しさで見学・学習することが出来ます。来館者は年間約3万5,000人で、入館料は一般100円、学生50円。1階フロアは観光休憩所にもなっており、誰でも気軽に利用できる博物館として親しまれています。



## 1F エントランスホール

1階エントランスを入ると、瀬戸内海の海底で発見された骨の化石を元に復元されたナウマンゾウの親子が、鼻を動かし、鳴き、訪れる人を出迎えます。まるで生きているかのような迫力に子どもたちからも大人気。瀬戸内海にナウマンゾウ!?と神秘に満ちた自然史の世界へ引き込まれます。

## 2F 第1展示室「瀬戸内海のおいたち」

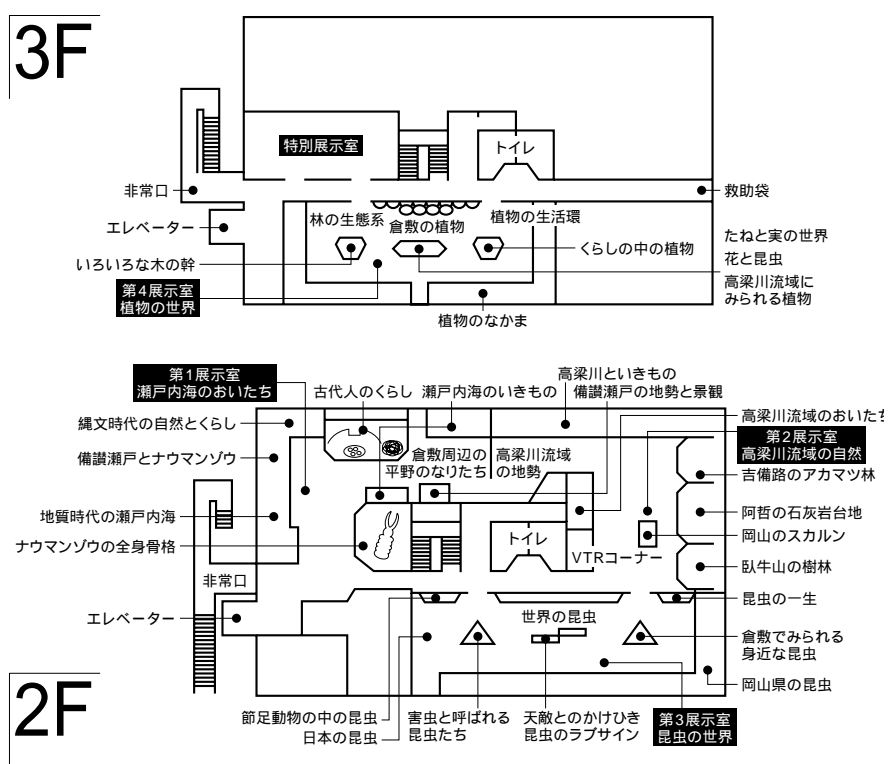
瀬戸内海の海底からは多くの化石が発見されています。約30万年前から2万年前、瀬戸内海は陸地で、ナウマンゾウがその森林や草原をのしり歩いていたと考えられています。第1展示室では、そのような瀬戸内海の歴史や古代人の暮らし、また、現在の瀬戸内海

## 2F 第2展示室「高梁川流域の自然」

2階展示室では、高梁川流域の自然について展示が行われています。石灰岩台地が広がる阿哲地方の地形など上流から中流、河口までの流域の特徴や、それぞれの場所で見ることのできる魚や鳥、虫などの生き物が展示されています。また、VTRコーナーでは高梁川

## 3F 第4展示室「植物の世界」

3階展示室では、植物の世界について展示が行われています。植物の多様さとまとも、人とのかわりあい、生きもの同士のつながりなどについて学ぶことができます。中でもキノコの展示はフリーズドライ化されており、興味深く見ることが出来ます。



## 3F 特別展示室「自然史の特別展」

自然史に関する特別展やその他の企画展が、テーマによって随時開催されます。

## 自然観察会・博物館講座

実際に野外に出て自然を観察する「自然観察会」や「施設見学」など、年間を通じて多彩な催しが開催されています。そのほか「博物館講座」や「標本の名前を調べる会」などが開かれます。

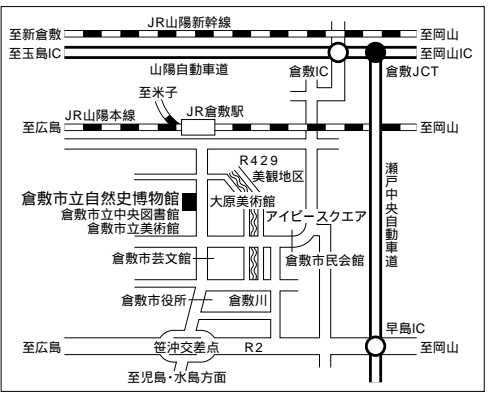
## 倉敷市立自然史博物館友の会

倉敷市立自然史博物館では、友の会活動が活発に行われていることも大きな特徴です。友の会は、自然史博物館の諸活動に協力しながら楽しく自然を研究し、自然科学の普及発展に寄与するとともに、会員相互の親睦をはかることを目的として、平成4年に設立されました。現在、会員数は約1,600名。博物館の自然観察会を含めた毎月の自然観察会のほか、宿泊観察会など友の会ならではの活動が行われています。

## 古代の化石から野外活動まで 自然界の神秘とロマンを探検!

博物館の使命は、収集し、保存し、公開することです。倉敷市立自然史博物館では、岡山県の昆虫がほとんど集められており、すべて「自然分類」で学術的に展示されています。他の博物館ではテーマに基づいた分類が行われていることが多く、全国的にもこれほどきれいに自然分類されている博物館は珍しいのだそうです。そして、倉敷市立自然史博物館では、自然観察会や友の会の活動が活発に行われていることも大きな特徴です。これは、自然の中で学んでいくことが大切であり、そのための学習を自然史博物館で行うということをめざしているためです。

また、毎年8月に行われる「標本の名前を調べる会」は、夏休み後半ということもあり、大変盛況となるそうです。この日には大勢の子どもたちが夏休みの自由研究で作った標本を持ち込み、専門家が標本の名前に答えてくれます。7月には標本作りの講座も開かれます。以前、この標本作り講座に参加した小学6年生が、玉島で見つけた八子を持ち込んだところ、世界で初めて発見された新種の八子であることが分かりました。この八子には発見者の山崎君の名前



倉敷市立自然史博物館  
〒710-0046 岡山県倉敷市中央2-6-1  
TEL 086-425-6037 FAX 086-425-6038  
URL <http://www.city.kurashiki.okayama.jp/musnat/>



**利用案内**  
開館時間：午前9時～午後5時  
(入館は午後4時30分まで)  
休館日：月曜日  
(祝日または振替休日の時はその翌日)  
年末年始、その他臨時休館日  
入館料：一般100円 学生50円

**[友の会のご案内]**  
お申込み、お問い合わせは自然史博物館内友の会事務局まで  
TEL 086-425-6037

# マニフェストシステムが変わります (平成13年4月1日から)

排出事業者が産業廃棄物の処理を委託するときは「産業廃棄物管理票(マニフェスト)」で管理することが、廃棄物処理法で義務付けられています。

このたび廃棄物処理法が改正され、排出事業者に最終処分終了までの確認が義務付けられ、平成13年4月1日からはこの改正に対応した新しいマニフェスト(7枚綴り)を使用しなければなりません。これに伴い現在使用しているマニフェスト(6枚綴り)は使用できなくなります。

(財)岡山環境保全事業団では、水島産業廃棄物処理処分施設を利用いただいている方に、事業団独自のマニフェストを発行してまいりましたが、現在、法改正に対応した新しいマニフェストを作成中で、3月中旬には準備できる見込みです。準備が出来次第皆様にお知らせする予定にしております。

なお、詳細につきましては、下記までお問い合わせください。

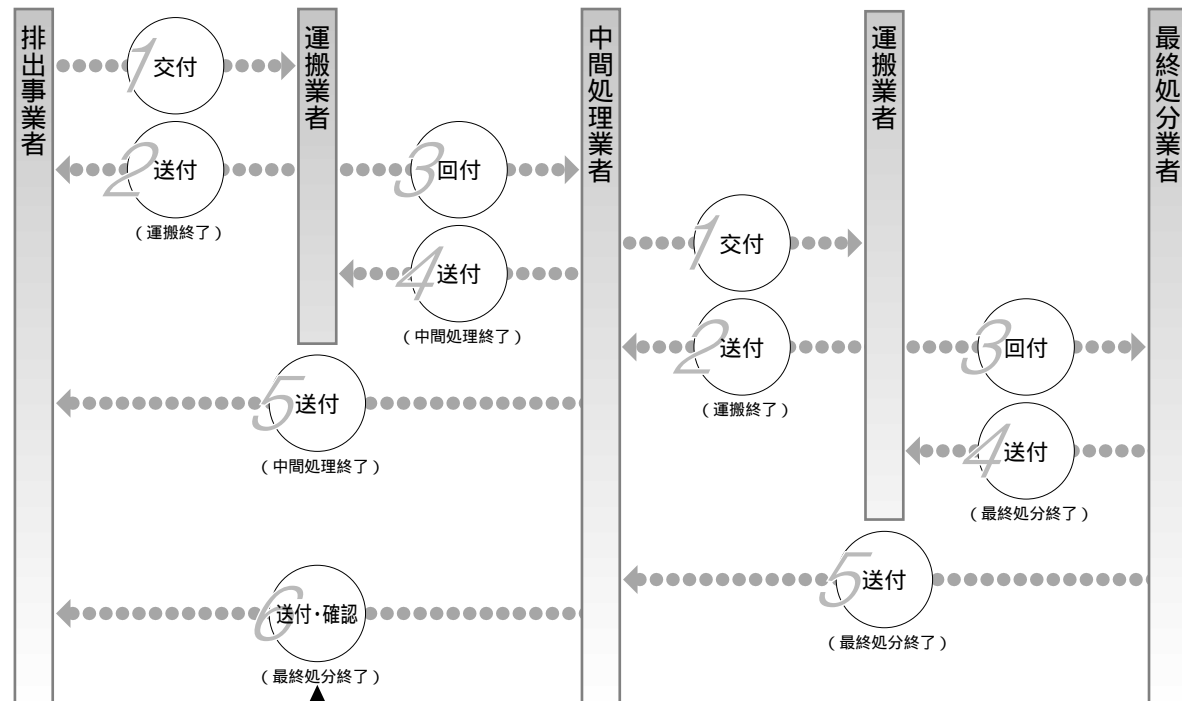
問い合わせ先

(財)岡山環境保全事業団 環境事業部業務課

**TEL.086-298-2123**

環境事業部水島管理事務所 TEL.086-440-0666

排出業者から見たマニフェストのながれの1例



この部分が改正になった所です。

# 岡山の自然と人の暮らしが共存する よりよい未来環境へ…。

(財)岡山県環境保全事業団は、環境面から郷土の発展に貢献しています。

SUPPORT

安全。

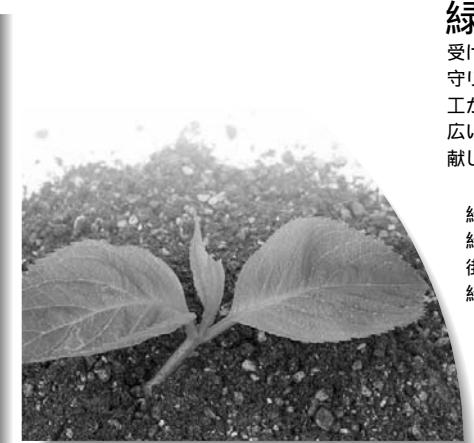
CREAT

快適。

## 環境事業部

産業活動と環境の調和をめざし、県内で発生する産業廃棄物を安全かつ適正に処理する最終埋立処分事業・中間処理事業を行っています。

- 産業破棄物の埋立処分
- 水島産業廃棄物埋立処分場
- 産業廃棄物の中間処理
- 水島クリーンセンター
- 資源化、再生利用の調査研究
- 処理・処分施設の企画・立案
- 建設残土センターの管理運営



## 緑化部

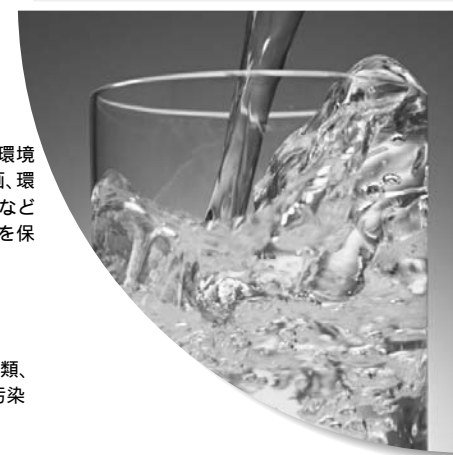
受け継がれてきた郷土の自然を守りながら、公共緑地の設計施工から街路樹の維持管理まで幅広い分野で緑の環境づくりに貢献しています。

- 緑化工事設計
- 緑化工事施工監督
- 街路樹緑地の維持管理
- 緑化サービス

## 環境調査部

環境調査、環境測定・分析、環境アセスメント・環境保全計画、環境監視・監視機器保守管理などを通して総合科学的に環境を保全します。

- 検査分析事業
- 水質、土壌、産業廃棄物、煙道排ガス、ダイオキシン類、環境ホルモン、有害大気汚染物質など
- 環境アセスメント
- 調査研究
- 大気環境測定機器保守管理



## 環境保全サービス

公益法人として広く県民に環境保全の大切さを知らせ、実践活動を行うとともに、関係機関との協力体制のもと各種事業を行っています。

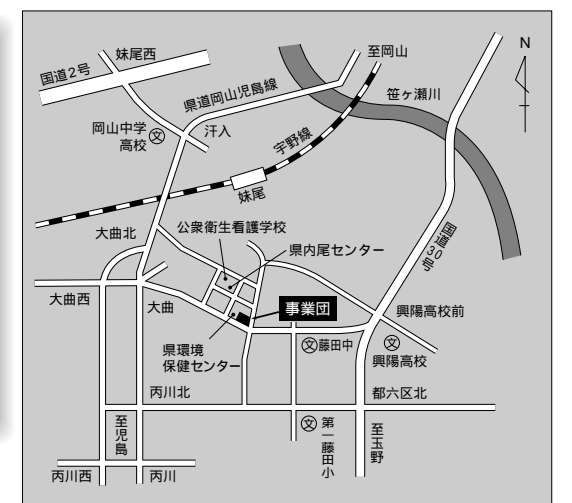
- 環境思想高揚運動の実施
- 環境情報誌「環境」の発行
- 公共緑化事業の推進
- 環境問題相談業務

RESEARCH

情報。

INFORM

安心。



財団法人 岡山県環境保全事業団

〒701-0212 岡山市内尾665-1 TEL(086)298-2122(代) FAX(086)298-2496

# INFORMATION

## イベントのご案内

**3月10日(土)・11日(日)雨天決行**  
**第14回瀬戸内倉敷ツーデーマーチ**

西日本最大の歩く祭典。倉敷市役所をスタート・ゴール地点として、10km・20km・40kmの3つのコースを歩く。競歩大会ではなく、倉敷・吉備路を舞台に早春の自然に親しみながら健康づくりやふれあいはかる。(当日参加申込み可能)

お問い合わせ  
倉敷市教育委員会体育課・  
瀬戸内倉敷ツーデーマーチ実行委員会  
(086)426-3855

**3月17日(土)・18日(日)**  
**久米町梅まつり**

久米郡久米町神代「梅の里」  
梅の花4,800本が咲く梅の里で、郷土芸能やもち投げが行われる。

お問い合わせ  
久米町役場産業課 (0868)57-3111

**4月中旬(4月10日(火)~20日(金)の予定)**  
**奥津町こぶし祭り**

奥津溪~奥津温泉街  
春の奥津溪を美しく彩るこぶしの花が咲くこの時期に、奥津町内の様々な所(道の駅や奥津溪、奥津温泉の各旅館)でイベントや特典がある。また、岡山県立森林公園近くにある月出原園地(奥津町羽出西谷)では、4月中旬~4月下旬に桜1,000本が見頃となる。

お問い合わせ  
奥津町役場観光産業課 (0868)52-2211

### そのほかの主な桜の名所

- ・半田山植物園(岡山市)4月上旬 夜桜
- ・べいふあーむ笠岡(笠岡市)4月上旬 古城山公園では夜桜
- ・岡山勤労者いこいの村(邑久町)4月中旬

## 桜の名所

桜まつりイベント(日程・場所)

**4月6日(金)~12日(木)予定**

**岡山さくらカーニバル**

岡山後楽園(岡山市)

後楽園東側旭川堤防

**4月1日(日)~15日(日)**

**津山さくらまつり**

鶴山公園(津山市)

鶴山公園、衆楽園

**4月1日(日)~30日(月)**

**深山まつり**

深山公園(玉野市)

期間中に各種イベント開催予定

**4月7日(土)~15日(日)**

**たけべの森桜まつり**

たけべの森(建部町)

**4月15日(日)**

**旭町桜まつり**

三休公園(旭町)

三休公園、民話村

**4月22日(日)**

**がいせん桜まつり**

がいせん桜(新庄村)

宿場町の桜並木

桜の見頃時期、イベント開催日程については変動する場合があります。

あなたも参加してみませんか!

岡山の自然に親しまり、大切にしよう!

## 【岡山の昆虫】



No.92

翅の開帳約60ミリ。ヤガ科のCataca属に所属。学名として使われているラテン語のCataは、cataは美しいを意味し、この属の方が美しい下翅を持つことに由来している。本種の場合も上翅の地味な色調とは対照的に下翅は黄と黒の色調で鮮やかに飾られている。

カトカラ属の方は世界に約200種、わが国には29種が知られ、母虫は食樹の樹皮やその近くに産卵、卵態で越冬し、発生は年一回に限られるという共通点を持っている。そして、岡山県には22種のカトカラが知られている。

フシキキシタバの分布圏は日本海を取り巻く地域に限られており、日本産カトカラ属中では最も稀な種の一つとされ、本州と対馬に局地的な分布が知られている。

岡山県では南部の比較的身近なところに稀ならず生息、県の特異性を示している。幼虫はアヘマキの葉を食べて育ち、成虫は6月ごろ出現する。(青野孝昭)

## 自然調査のススメ

No. その9



岡山市の南部、児島湖に接する干拓地に阿部池という大きな池があります。冬には沢山のカモ達が渡来することで有名な池で、カモのほかにもシギの仲間やミサゴ、チュウビといったタカ目の仲間も見ることができ、野鳥観察者にとっては聖地みたいな場所です。私も学生の頃にはこの池に通い、水鳥の識別の練習などで随分お世話になったものです。

最近、仕事の関係で再び阿部池に通うことが多くなりました。以前とは多少様子が変わって、阿部池の南側にあった耕作地がなくなって、すぐ側に新しい道路ができていました。阿部池の中も水位が随分と低くなり、所々で中州が見えるようになっていました。カモの種類も減っているようでした。でも、一番気になったことは、ゴミがやたらと多いことです。

以前もゴミが無かったわけではありませんが、池の中に捨てられた冷蔵庫の上にオナガガモが座っていたりしていました。でも、今よりは少なかったように思われます。今、児島湖に接する水門付近には、洗濯機や扇風機等の粗大ゴミが山積みさ

れています。池の堰堤には空き缶や古雑誌や、時には動物の毛の様なものまで散乱し、腐臭がすることさえあります。

日本野鳥の会岡山県支部の丸山健司さんにお話を伺ったところ、野鳥の会では定期的に阿部池の清掃を行っているのですが、その度にトラックいっぱいゴミが回収されているようです。また、岡山市ではゴミの分別収集が徹底されているため、回収後の仕分けに大変苦労されているとのことでした。

阿部池に限らず、調査に出ると至る所でゴミを目にします。私の憶測ですが、ゴミを捨てる人たちはおそらく、その場所が自分にとって大切な場所と考えていないのでしょう。極言すれば自分の生活とは切り離された場所、四次元空間のような認識できない空間なのかもしれません。

私は野鳥の会の方々が特別な人たちとは思いません。むしろ自分たちが大切だと思ふものを守りたいと考えるのは当然の事だと思えます。一番怖いのは無関心でいることです。無関心でいることは簡単で、それでいて周りにダメージを与えてしまします。自分の周りに関心を持ち、その範囲を少しずつ広げれば、阿部池に代表されるようなゴミの問題も多少は解決するのではないのでしょうか。

(環境調査部 大坪尚広)

## 編集後記

岡山市立平福小学校を2日間取材しました。目的意識を持った子どもたちが、真面目に環境に関わり、行動する姿勢が印象的でした。今、真面目なことは「カゴ悪い」とか「無関心」という風潮がある中で、環境教育は大人たちにも大事な何かを気付かせてくれます。身近な環境に真面目に関わり、行動する姿勢こそ、環境問題解決のための第一歩と感じました。

表紙のコメント  
自然の中の幾何学模様  
新見地方のタバコ栽培風景  
昭和初期には日本でも指折りのタバコの産地で、現在も県下有数の産地として名高い新見地方。3月下旬から4月上旬、苗の植え付けと同時に防霜のための袋がかけられ、畑一面に白い三角形が整然と並んだ風景が現れる。三角形の袋は高さ約30cm、紙製でロウがコーティングされたもので、5月頃には取り除かれる。

発行日/平成13年2月28日

発行所/財団法人  
岡山県環境保全事業団  
〒701-0212 岡山市内尾665-1  
TEL.086-298-2122(代)  
FAX.086-298-2496  
http://www.kankyo.or.jp